

飲食店で外国人に「話しかけた」「話しかけられた」ことがある人は19.8%

飲食関連では「注文の仕方」「メニューや味付け」等を会話

国内の飲食店での国際交流は「積極派」13.1%、「消極派」51.2%

「飲食店で外国人に話しかけた、話しかけられた経験」についての調査（2023年8月実施）

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘、以下リクルート）の外食市場に関する調査・研究機関『ホットペッパーグルメ外食総研』（<https://www.hotpepper.jp/ggs/>）は、首都圏・関西圏・東海圏での「飲食店で外国人に話しかけた、話しかけられた経験」についてアンケートを実施しました。その結果を発表いたします。

<要約>

POINT1 国内の飲食店で外国人に「話しかけた」または「話しかけられた」ことがある人は19.8%

・・・P3

▶国内の飲食店で外国人に「話しかけたことがある」は9.4%、「話しかけられたことがある」は16.9%、「話しかけた」または「話しかけられた」は19.8%であった。

▶20代男性は「話しかけたことがある」（16.6%）、「話しかけられたことがある」（23.0%）、「話しかけたこと、または話しかけられたことがある」（28.1%）の回答割合が、すべての性年代で最も高い。

POINT2 話しかけた内容、話しかけられた内容とも、飲食関連のトップ3は

「注文の仕方」「メニューや味付け」「日本の飲食物全般」

・・・P4-5

▶話しかけた内容は、「出身地など相手のことについて」以外では、「注文の仕方」（25.6%）、「メニューや味付け」（22.3%）、「日本の食べ物・飲み物全般」（21.2%）。

▶話しかけられた内容は、「日本の観光について」以外では、「注文の仕方」（23.8%）、「メニューや味付け」（21.5%）、「日本の食べ物・飲み物全般」（18.8%）。

POINT3 国内の飲食店で国際交流「積極派」は13.1%、「消極派」51.2%。

「積極的に話しかけないが、話しかけられれば対応したい」30.5%

・・・P6-7

▶国内の飲食店で外国の方と話すことについて積極性を尋ねたところ、「とても積極的」と「やや積極的」を合わせた「積極的・計」は13.1%、「やや消極的」と「とても消極的」を合わせた「消極的・計」は51.2%。男女ともに年代が若いほど「積極的・計」の割合がおおむね高くなる傾向。

▶国内の飲食店で外国の方と話すことに対する考え、「積極的に話しかけないが、話しかけられれば対応したい」30.5%、「もともと知らない人との交流は苦手」23.5%、「自分も外国では助けてほしいので、お互い様で手助けしたい」20.2%。

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

調査概要と回答者プロフィール

- ◎調査名 外食市場調査（2023年7月度）
- ◎調査方法 インターネットによる調査

首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査（外食市場調査）の中で、「飲食店で外国人に話しかけた、話しかけられた経験」について、コロナ禍前後の経験有無や話した内容、話すことに対する積極性や考え方などについて聴取。

- ◎調査対象 首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県）、関西圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県）、東海圏（愛知県、岐阜県、三重県）に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）

■事前調査

- ①調査目的 本調査の協力者を募集するために実施
- ②調査時期 2023年6月16日（金）～2023年7月3日（月）
- ③調査対象 首都圏、関西圏、東海圏に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
- ④調査内容 本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
- ⑤配信数 495,890 件
- ⑥回収数 31,533 件
- ⑦本調査対象者数 13,190 件

- ◆本調査対象者の割付について
 - ・本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、割付を行って回収した。
 - ・性年代別10区分×地域別25区分（首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分）＝250セルについて、令和3年人口推計（総務省）に基づき割付を行った。
 - ・本調査の目標回収数は、首都圏4,000s、関西圏2,000 s、東海圏2,000 s、合計8,000 sとした。

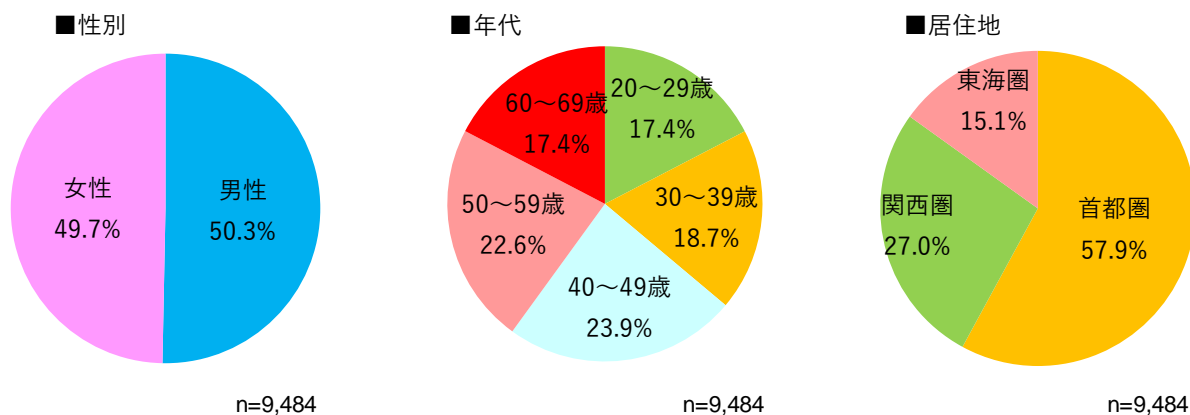
■本調査

- ①調査方法 事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
- ②調査期間 2023年8月1日（火）～2023年8月9日（水）
- ③配信数 12,661 件
- ④回収数 9,567 件 （回収率 75.6 %）
- ⑤有効回答数 9,484 件 （首都圏 4,813 件、関西圏 2,536 件、東海圏 2,135 件）

※回収された票のうち、自由回答コメントから、趣旨に合わないと思われる票を無効としたほか、事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1カ月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

- ◆集計方法について
 - ・本調査結果は、令和3年人口推計（総務省）における割付（性年代別10区分×地域別25区分＝250セル）別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計を行っている。
 - ・補正後のサンプル数は次の通り。
3圏域・計 9,484 件（首都圏 5,494 件、関西圏 2,558 件、東海圏 1,431 件）

◆回答者プロフィール（ウェイトバック後）

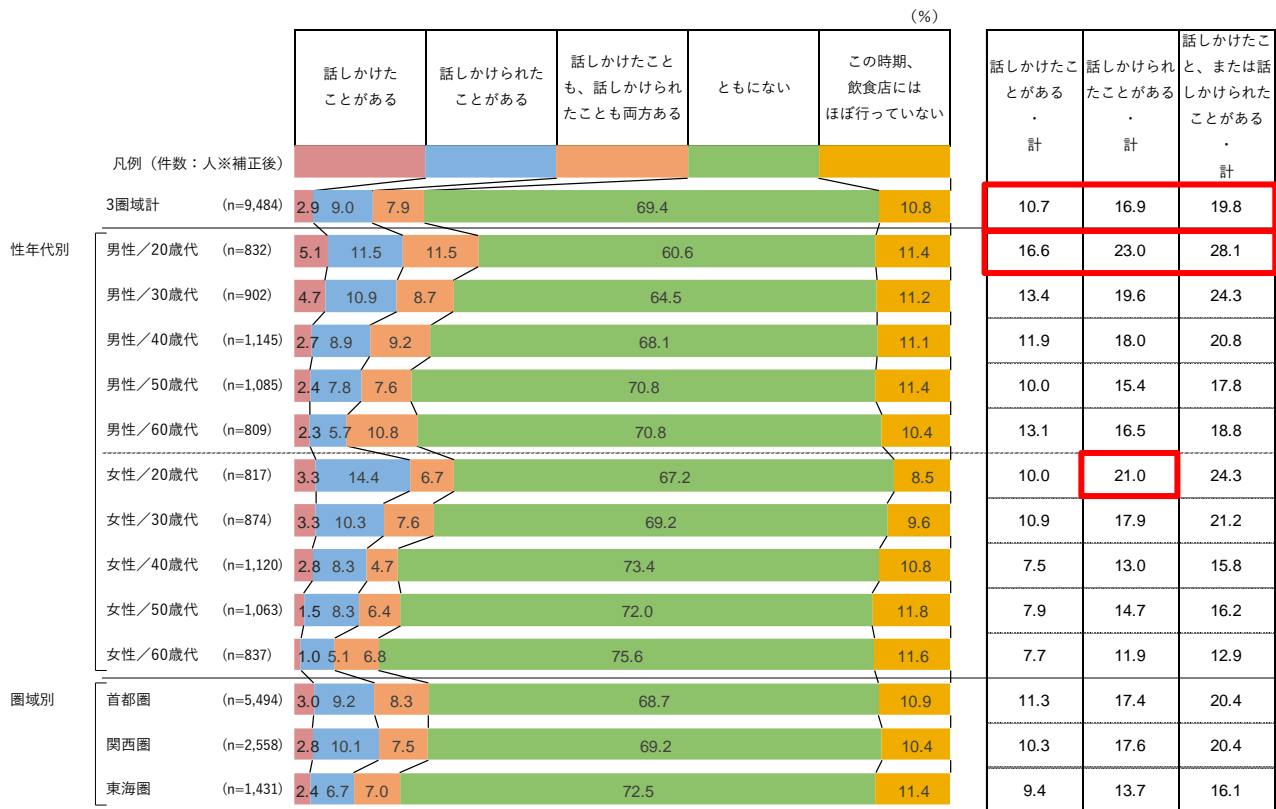


1. 国内の飲食店で外国人に「話しかけた」または「話しかけられた」ことがある人は19.8%

国内の飲食店で外国人に話しかけた、話しかけられた経験を尋ねたところ、「話しかけたことがある・計」は10.7%、「話しかけられたことがある・計」は16.9%、「話しかけたこと、または話しかけられたことがある・計」は19.8%であった（各集計の詳細は注記参照）。性年代別では、20代男性は「話しかけたことがある・計」（16.6%）、「話しかけられたことがある・計」（23.0%）、「話しかけたこと、または話しかけられたことがある・計」（28.1%）の回答割合が、他の性年代より高かった。また、20代女性も「話しかけられたこと・計」が21.0%に達し、20代は男女とも2割以上が話しかけられた経験があった。

日本国内の飲食店で、外国の方（と思われる人）に話しかけた、話しかけられた経験／コロナ禍前の約3年間～現在（2017年3月～現在）（全体／それぞれ単一回答）

※コロナ禍前の約3年間（2017年3月～2020年2月）、コロナ禍中の約3年間（2020年3月～2023年4月）、現在（2023年5月以降）の合算集計



※それぞれ「コロナ禍前の約3年間」「コロナ禍中の約3年間」「2023年5月以降」のいずれかの時期で回答した人を集計。ただし「とにもない」は「コロナ禍前の約3年間」「コロナ禍中の約3年間」「2023年5月以降」の全ての時期で「話しかけたことがある」「話しかけられたことがある」「話しかけたこと、話しかけられたことも両方ある」を回答せずかついずれかの時期で「とにもない」と回答した人を集計。また、「この時期、飲食店にはほぼ行っていない」は「コロナ禍前の約3年間」「コロナ禍中の約3年間」「2023年5月以降」の全ての時期で「この時期、飲食店にはほぼ行っていない」と回答した人を集計

※話しかけたことがある・計：「コロナ禍前の約3年間」「コロナ禍中の約3年間」「2023年5月以降」のいずれかの時期で「話しかけたことがある」「話しかけたこと、話しかけられたことも両方ある」のいずれかを回答した人を集計

※話しかけられたことがある・計：「コロナ禍前の約3年間」「コロナ禍中の約3年間」「2023年5月以降」のいずれかの時期で「話しかけられたことがある」「話しかけたこと、話しかけられたことも両方ある」

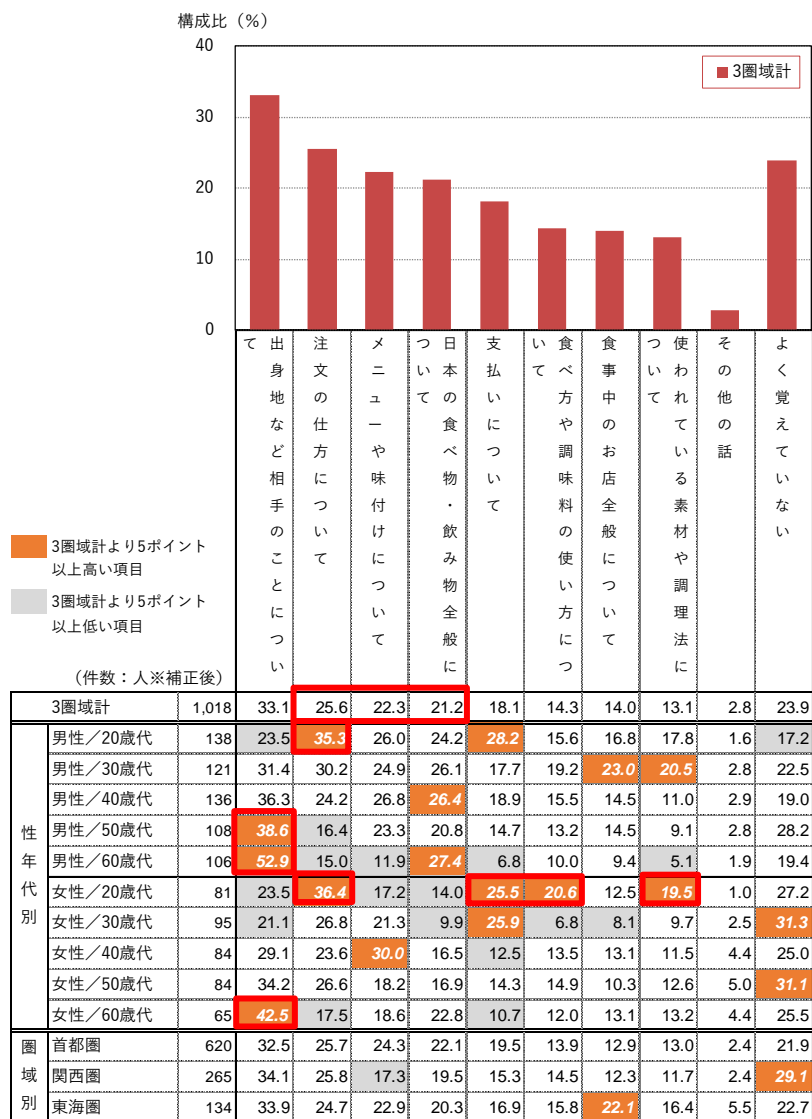
のいずれかを回答した人を集計

※話しかけたこと、または話しかけられたことがある・計：「コロナ禍前の約3年間」「コロナ禍中の約3年間」「2023年5月以降」のいずれかの時期で「話しかけたことがある」「話しかけられたことがある」「話しかけたことも、話しかけられたことも両方ある」のいずれかを回答した人を集計

2. 話しかけた内容、相手のことについて以外では、「注文の仕方」の回答割合が最も高く25.6%

話しかけた内容については、「出身地など相手のことについて」以外では、「注文の仕方」の回答割合が最も高く25.6%。次いで、「メニューや味付け」が22.3%、「日本の食べ物・飲み物全般」が21.2%と続く。性年代別では、50・60代男性や60代女性で「出身地など相手のこと」の、20代男女で「注文の仕方」の割合が他の性年代に比べ高くなっている。また、20代女性では、他にも「支払い」「食べ方や調味料の使い方」「使われている素材や調理法」等多岐にわたる項目で他の性年代に比べ割合が高くなっている。

国内の飲食店で、外国の方に話しかけた内容／コロナ禍前～現在（2017年3月～現在） （コロナ禍前～現在までの間に国内の飲食店で外国の方に話しかけた人／複数回答）



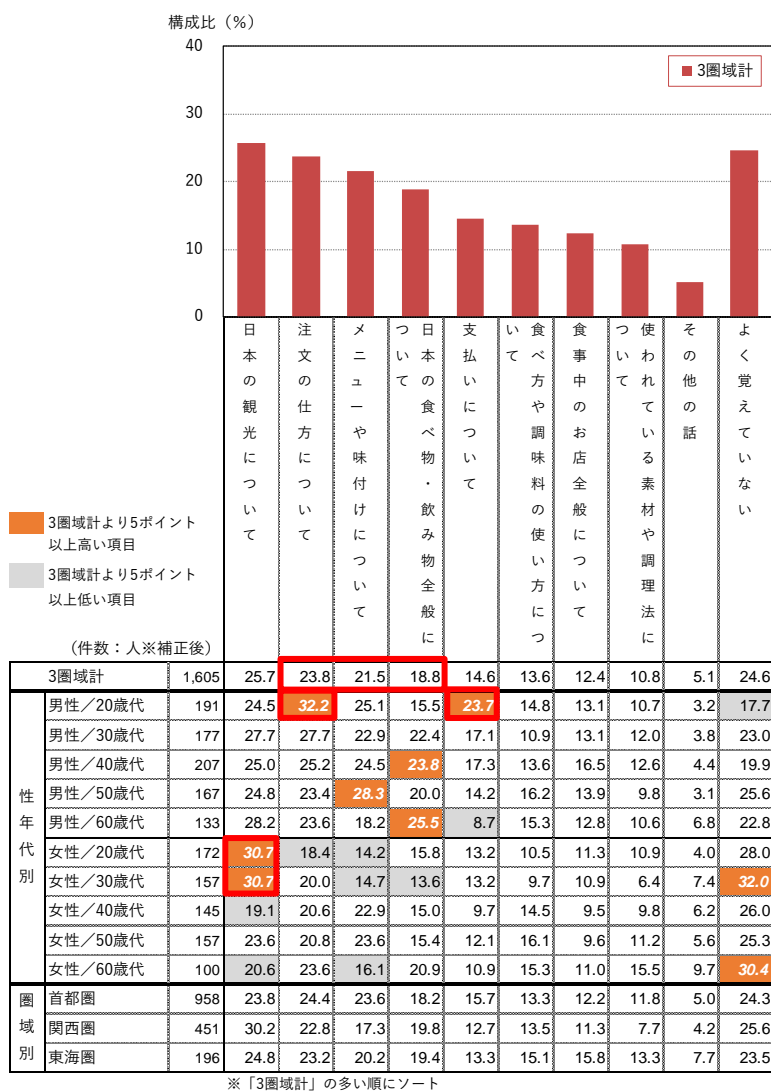
※「3圏域計」の多い順にソート

※各選択肢について、「コロナ禍前の約3年間」「コロナ禍中の約3年間」「現在」のいずれかで回答した人を集計。ただし、「よく覚えていない」は、上記期間のいずれかで他の項目の回答があった場合は集計していない

3. 話しかけられた内容、観光関連以外では「注文の仕方」「メニューや味付け」「日本の飲食物全般」

話しかけられた内容については、「日本の観光について」以外のトップ3は話しかけた場合と同じ内容になっており、「注文の仕方」が23.8%、「メニューや味付け」が21.5%、「日本の食べ物・飲み物全般」が18.8%であった。性年代別では、20・30代女性で「日本の観光」の、20代男性では「注文の仕方」「支払い」の割合が高くなっている。

国内の飲食店で、外国の方に話しかけられた内容／コロナ禍前～現在（2017年3月～現在） （コロナ禍前～現在までの間に国内の飲食店で外国の方に話しかけられた人／複数回答）

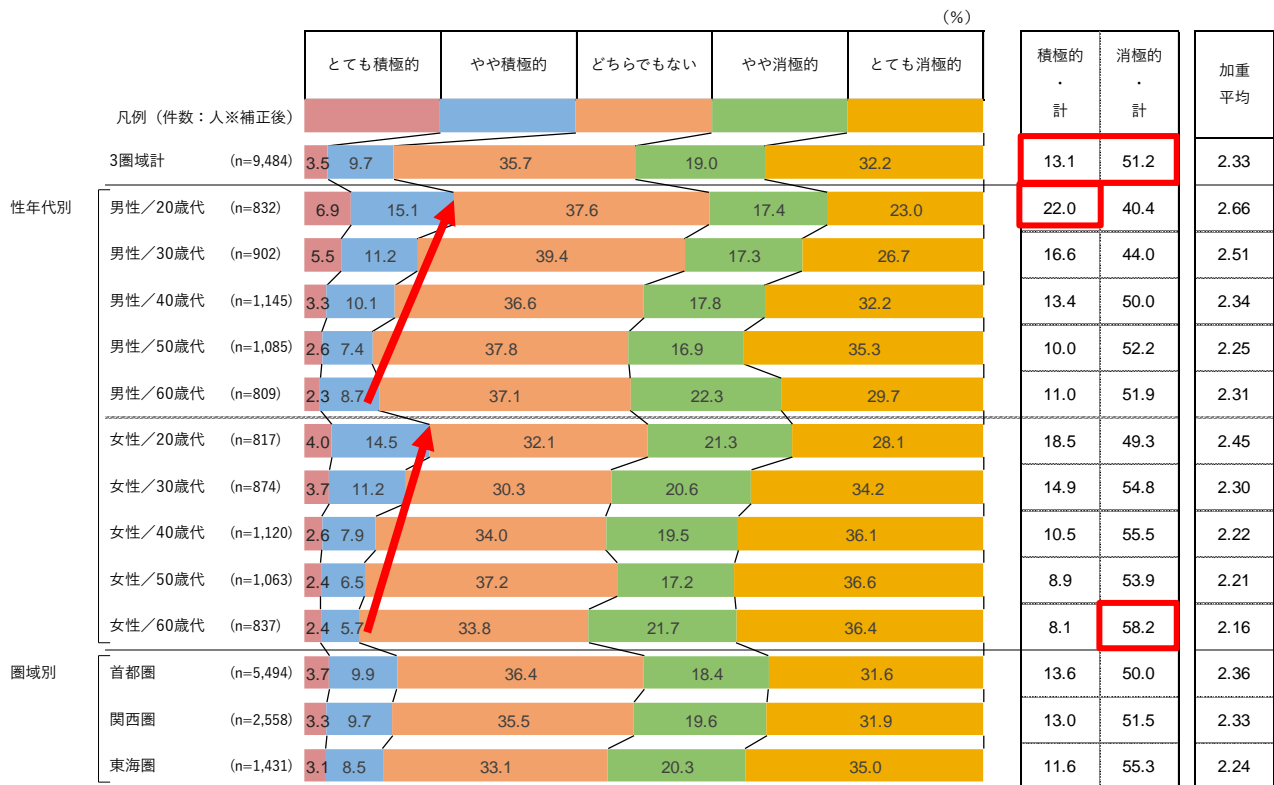


※それぞれの項目について、「コロナ禍前の約3年間」「コロナ禍中の約3年間」「現在」のいずれかで回答した人を集計。ただし、「よく覚えていない」は、上記期間のいずれかで他の項目の回答があった場合は集計していない

4. 国内の飲食店で国際交流「積極派」は13.1%、「消極派」51.2%が大きく上回る

国内の飲食店で外国の方と話すことについて積極性を尋ねたところ、「とても積極的」と「やや積極的」を合わせた「積極的・計」は13.1%で、「やや消極的」と「とても消極的」を合わせた「消極的・計」の51.2%に比べると、大幅に少なかった。理由については後述するが、全体としては、外国人との交流については、まだまだ“奥手”と言えそうだ。性年代別で最も積極的なのは20代男性（積極的・計 22.0%）であり、逆に最も消極的なのは60代女性（消極的・計 58.2%）であった。また、男女ともに年代が若いほど「積極的・計」の割合がおおむね高くなる傾向だ。

国内の飲食店で、外国の方と話すことについての積極性（全体／単一回答）



※加重平均：「とても積極的」5点、「やや積極的」4点、「どちらでもない」3点、「やや消極的」2点、「とても消極的」1点として算出した平均値

※積極的・計：「とても積極的」「やや積極的」のいずれかを回答した人を集計

※消極的・計：「とても消極的」「やや消極的」のいずれかを回答した人を集計

5. 「積極的には話しかけないが、話しかけられれば対応したい」30.5%

国内の飲食店で外国の方と話すことに対する考え方を調べるため、積極的あるいは消極的な考え方やその理由等を示し、当てはまるものを尋ねた。最も回答割合が高かったのは「積極的には話しかけないが、話しかけられれば対応したい」で30.5%。次いで「もともと知らない人との交流は苦手」が23.5%、3番目に「自分も外国では助けてほしいので、お互い様で手助けしたい」が20.2%となっている。性年代別では40～60代女性では「積極的には話しかけないが、話しかけられれば対応したい」の割合が高く、消極的な傾向があった中高年女性も実は助けてほしい気持ちは持っていることがうかがえた。また、20代女性は「自分も外国では助けてほしいので、お互い様で手助けしたい」「積極的に会話して交流を楽しみたい」「翻訳サイトや翻訳アプリ等を使って対応したい」の割合が他の性年代よりも高く、交流に前向きである

